

過去と人間性

tenori

2023 年 2 月 5 日

1 概要

成人になる前に自分の過去を振り返るために書いたもの。この章では軽く自己紹介。

1.1 生い立ち

2005 年誕生。生まれたときから父親はおらず、母と祖父母に育てられた。5 歳からヴァイオリン、水泳などを習う。小学校では大手塾に通い、有名な中高一貫校に合格。中高ではクラシック研究部（室内学部のようなもの）に入り、高 1 で部長となる。

1.2 特技・資格

- 英検準 1 級
- 某音楽コンクール優勝（高校生・弦楽器部門）
- 柔道初段
- そろばん 珠算 3 級・暗算 2 級
- JJMO・JMO 本選出場
- 競技プログラミング AtCoder 水色 (highest)
- けん玉も得意

2 死生観

小 1 あたりから、自分は何かという疑問を持っていた。自分が知っているこの世界は自らの脳を通して理解できるものがすべてであり、周りの人はおろか宇宙すら本当に存在するなのか怪しく思えてくる。その辺を理解するためには死んでみる必要があると考えたので「死にたい」と口にすることもあったが、親を泣かせてしまったからは言わないようにしている（というか別にそう思わなくなった）。

今は、「無から + の世界と - の世界に分かれ、その一方に自分たちがいる。死んだら体が骨と灰になるだけで、魂なんぞは幻想で死後の世界はない」と考えている。

3 人間性

生まれてから大きく変動する人間性について説明したい。

まず、小学校低学年まではいたって普通の子だった。目立ちたがりなわけでもなく、無口なわけでもない。友達も人並みにいた感じである。小3から休み時間にのドッジボールに参加し始め、クラスの子との交流が活発になった。小4では、担任が議論することを大切にする人だったので、自分も授業中で積極的に発言するようになった。中2まではこのように active な人間だった。

しかし、中3になる前に異変が訪れた。ある日、「あ」や「い」から始まる単語や文章を口にしなくなったのである。それから1か月くらいかけてあらゆる言葉が言いづらくなった。調べてみるとこれは吃音というらしい。また、吃音の原因には肉体的原因と精神的原因があるらしい。独り言に問題はなく、人と喋るときだけ言いにくいことから、精神的な要因があるのだろうと考えていると、思い当たる節があった。

小学校で自分が活発になり始めた頃から、「周りに流されてはいけない」、「自分の意見を持って主張しなければならない」と過度に考えるところがあった。ところが、中学生になり、歯に衣着せぬ物言いでは周りに嫌な思いをさせてしまうかもしれないと思って、自分の発言にフィルターをかけるようになった。自分が言わんとすることを素直に発するのではなく、一度頭で検閲してから言うようになったのである。もちろんこれは良いことでもあるが、その反面、喋るという行為に心理的な負荷がかかるようになった。その結果口数が減少し、消極的になり、いつしか仲良しだけのコミュニティに籠るようになってしまった。

4 将来

小学校までは外科医を強く志していたが、中学校に入ってから医者というものに興味を持てなくなった。別のものに興味が移ったわけでもない。自分の将来像がなくなってしまったのである。死んだあとどうなるのか、自分がどの次元の中でどういう立ち位置にいるのか理解しないでは人生を設計できるはずもない（これはちょっと言いすぎ）。

ところが最近、進路を考えなければならない歳になって、モノ（ロボットでもアプリでも何でも）を開発する仕事が自分に向いているかなと考えるようになった。研究者は論文をたくさん書かなければならないし（このレポートも2ページ目にして体力の限界が近づいている、あと開発業も論文書かなあかんのは知ってるけど）、サラリーマンのように好きでないことをして会社のために尽くすのも自分には無理だ。消去法的に、何かの開発や発明家という選択肢が残った。これからは、そこそこ良い大学で学び、五感をフルに働かせて自分に合う道を探していく所存である。

最後まで読んでいただきありがとうございました。